

気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう！

第2回会議：2023年7月16日

実行主体：あつぎ気候市民会議実行委員会
主催：一社）あつぎ市民発電所、厚木市
連携：一社）環境政策対話研究所
協力：公）地球環境戦略研究機関（IGES）
神奈川県環境科学センター

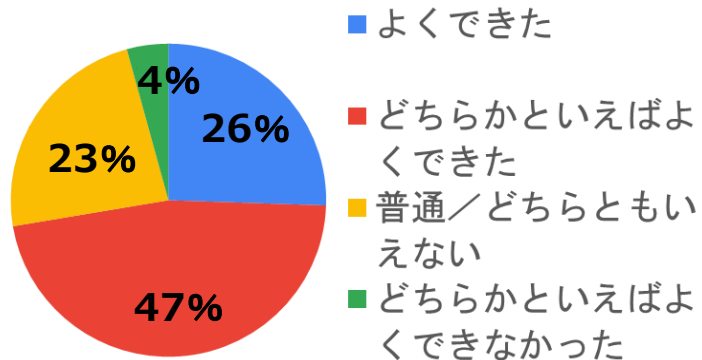
あつぎ気候市民会議



本日の内容

- 13:00 開会
前回のふりかえり、本日の内容とゴール
アイスブレイク
地域脱炭素を考える補足説明 IGES渡部厚志氏
2050年のイメージ意識化
- 13:30 専門家レクチャー ①②③
- 14:15 <休憩>
- 14:25 グループワーク①（講師への質問を出す）
質疑応答
- 15:05 グループワーク②（2050年のイメージ）
- 15:50 <休憩>
- 16:00 グループ発表
- 16:20 今後の会議の進め方について（提案）
次回に向けての連絡
- 17:00 閉会

第1回会議終了後のアンケート結果



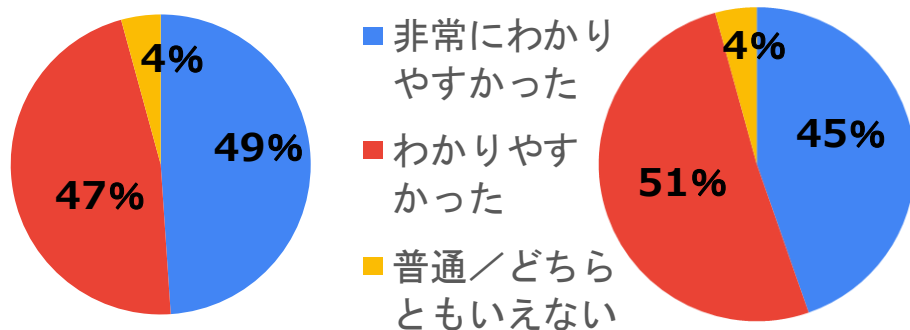
グループワークは？

ファシリテーターが意見を拾ってくれた

話しやすい雰囲気だった

話しの長い人がいた

専門家レクチャーについて



江守正多氏のレクチャーは？

渡部厚志氏のレクチャーは？

回答数47件/参加者数47名

前回のふりかえり

もっと話し合う時間が欲しかった
考える時間が欲しかった。
盛り上がったところで時間切れ。

適切
進行スムーズ

環境問題を何も考えずに生活していたら大変な事になることを改めて考えさせられた。時間の猶予がないことを実感した。今からでもできることを少しでもやっていきたいと思う。

気候変動対策について、日本人はネガティブに捉えているけど海外ではポジティブに捉えていることが印象に残った。

まだまだ基本的なことを学ばなければならないと感じた。

全体的に、食について白熱したのがとても興味深かった。

グループワークの時間

エアコン効きすぎ

開会・閉会時間厳守で

皆さんがご自分の考えを率直に話され、自分の発言も真剣に聞いてくださったので緊張することなく意見を言えたので良かった。

カーボンニュートラルについて皆さんで話し合うといろいろな考え方が聞けて、自分にない意識に気づく機会ができた。話し合いの時間がもう少しあったらと思った。

印象に残ったこと・感想

気候市民会議終了後学んだ内容を活かし地域に展開するために、6回の会議終了後、厚木市が主導し今回の参加者が活動を継続させやすい仕組みの提供が必要。

各対策の削減効果を数値で見せて頂けたのは良かった。が、総合的な効果も知りたい。例えばEVであれば、車の製造や電池の維持、インフラ整備まで含めてCO2削減になるのかなど。

本日の内容

本題に入る前に今一度「**急ぐ必要**」を再認識しよう
社会の仕組みや価値観をみなおし、みんなで脱炭素社会へ

1. 2050年への道筋 地域特性と市のプラン
 - ・神奈川県における地球温暖化の影響
 - ・厚木市の地域特性
 - ・厚木市カーボンニュートラルロードマップ、地球温暖化対策実行計画
2. 2050年 脱炭素化したまちのイメージを描く

本日のゴール

アクションプランを考えていくベースをつくろう
次回からどんなテーマで考え議論していこうか
(実行委員会提案への意見も)

アイスブレイク

じぶんごとプラネットをやってみた感想を出し合ってみよう！

- ① お一人1分ずつ
- ② お互いに質問し合う、多くの方に共通していた感想を
深掘りしてみよう

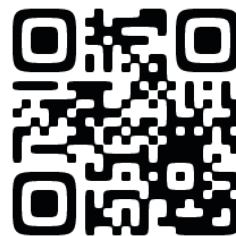
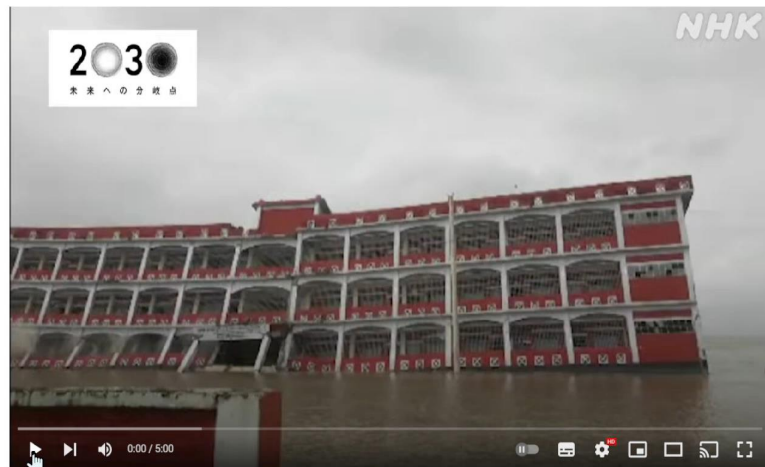
13:15まで

温暖化は新フェーズへ2030 未来への分岐点

NHKスペシャル「2030 未来への分岐点」暴走する温暖化“脱炭素”への挑戦 | SDGs | NHK
NHKスペシャル

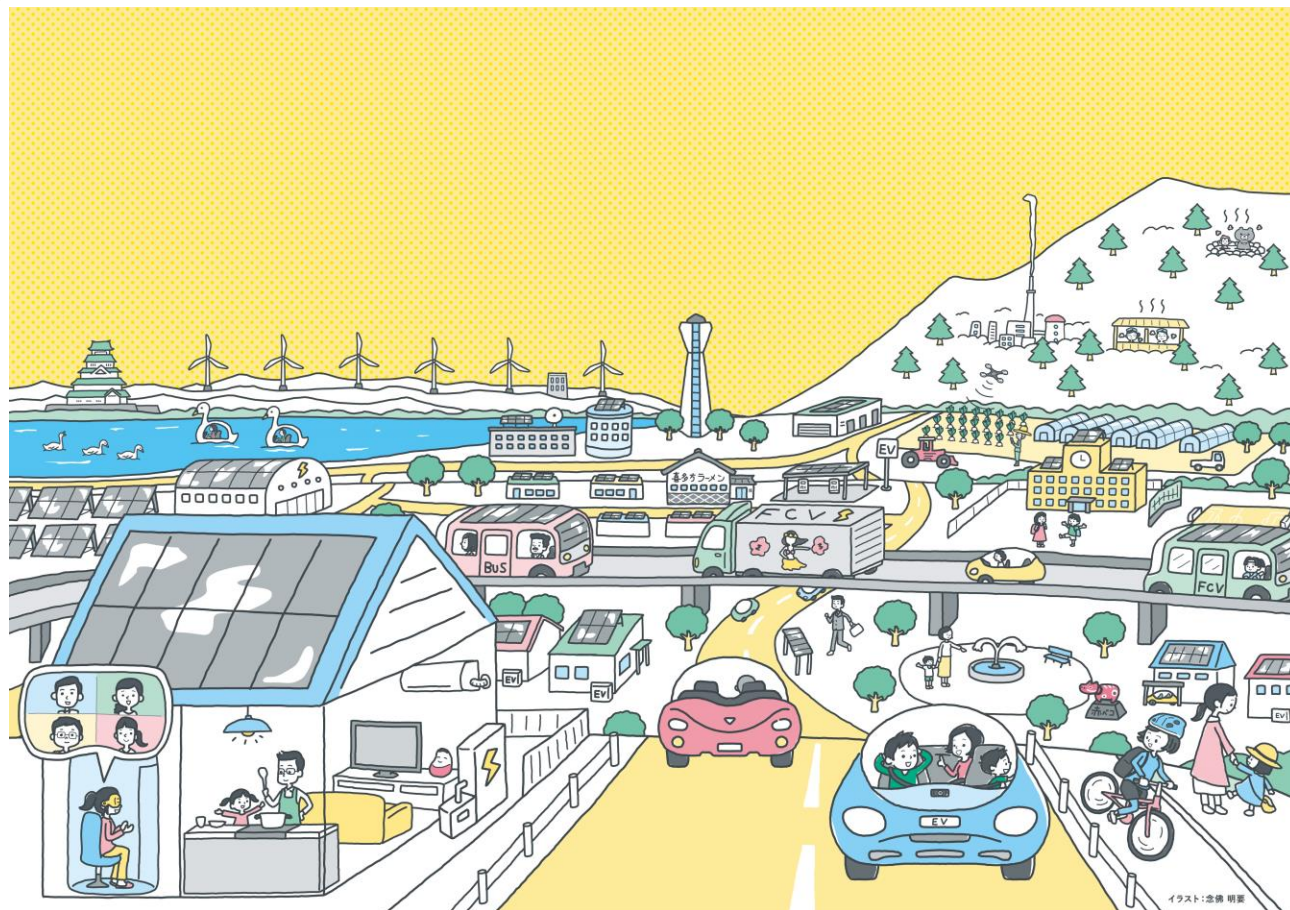
<https://youtu.be/Vc8Yt5xLLfU>

このままいくと早ければ2030年にも、地球の平均気温は臨界点に達するといわれている。それを超えていくと、温暖化を加速させる現象が連鎖し暴走を始める可能性が明らかになってきた。その時、私たちの暮らしはどうなるのか、どうすれば破局を回避できるのか。この10年歩むべき道を考える。



視聴はこちらから

<https://youtu.be/Vc8Yt5xLLfU>



いまから27年後、どんな未来？ たとえば・・・

- ✓ 自動運転車が実現
- ✓ 自宅にいながら仮想現実を旅する没入型ツーリズムが普及する
- ✓ このころ人工光合成が普及する
- ✓ 他人の脳の情報を読み取って体感できるようになる
- ✓ 人工知能を備えたロボットが社会のインフラになる（介護などを想定）
- ✓ コンピューターが外科手術を担当する
- ✓ コンピューターが教師の代わりをする
- ✓ 30人の乗客を片道7.5日で高度3万6000キロまで引き上げるカーボンナノチューブ製の国産「宇宙エレベーター」が実現

生活総研「未来年表」より

https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/search_category.php?year=2050&category=5

いまから30年前はどうだった？

- ✓ 携帯電話は使っていた？ポケベル？PHS？
- ✓ ビデオテープ
- ✓ ワープロ、フロッピーディスク
- ✓ スーパーファミコン
- ✓ どこでも喫煙OK
- ✓ 毛利衛がスペースシャトルで宇宙飛行
- ✓ レインボーブリッジが開通



専門家レクチャー①

神奈川県（厚木市周辺）における 地球温暖化の影響

新井聡史 氏

神奈川県気候変動適応センター
（神奈川県環境科学センター）

事前配信資料

[レクチャー1 神奈川県（厚木市周辺）における地球温暖化の影響](#)

当日資料

神奈川県気候適応センター
パンフレット

専門家レクチャー②

厚木市の地域特性について
～コンパクト・プラス・ネットワークに
向けたまちづくり～

前場 徹 氏

厚木市まちづくり計画部 部長

事前配信資料

[レクチャー2 厚木市の地域
特性について～コンパク
ト・プラス・ネットワーク
に向けたまちづくり](#)

専門家レクチャー③

厚木市のCN施策
#カーボンニュートラルあつぎ
みんなで取り組みましょう

山崎尚裕 氏

厚木市環境政策課

事前配信資料

[レクチャー3 厚木市のカーボンニュートラル施策](#)

当日補助資料

- ・カーボンニュートラルロードマップ
- ・地球温暖化対策実行計画
- ・地球温暖化対策実行計画第2章（地域特性）+住宅戸建集合比

グループワーク①

講師の情報提供に関する質問を出し合おう

レクチャー聞きながら		わからないこと、確認したいことを各自がふせんに書いておく
14:35から	10分	ふせんを出し合い、似た質問を固め、優先順位をつける 質疑応答で質問する人をきめる

14:45まで

14:45から	30分	全体で質疑応答 グループから一つずつ
---------	-----	--------------------

話し合いのルール

- 自分の正直(率直)な意見をお話してください。遠慮なく発言しましょう。
- 他の参加者が嫌(不快)な気持ちになる発言や行動は控えましょう。
- 他の参加者が発言している時は、遮らずに最後まで聞くように努めましょう。
- 分からない事に関しては素直に質問しましょう。
- 議論すべき話題に集中しましょう。
- なるべくみなさんが発言の時間を持てるように、意見は手短かに述べましょう。
- 話し合いを通してお互いの考えや意見の変化を受け入れましょう。
- 気分が優れなくなった場合など、無理せず離席しましょう。

質疑応答

各グループからの質問（一つずつ）に
レクチャー講師から回答していただきます。

15:10まで

質疑応答

- (質問) 2に対して
- なぜバスを道沿いに緩やかに作るのか？
- 厚木駅を中心に放射線状に伸びているが、横の動きはなぜできていないのか？

(回答) 戦前戦後に今のバス路線ができあがった。住まいに適したエリアが街道沿いだったため、都市構造が手のひら型。郊外から駅に行くバスに、郊外の企業の方が乗る。双方向型。そういうバス路線を維持することが持続可能なまちづくり。

放射状の道路を中心にまちづくりしてきた。環状系の道路もできればバスもそれに合わせて整備できる。環状形の横展開が課題。

質疑応答

- (質問) 3
- 太陽光パネル、廃棄物増える？

(回答) 廃棄物が増えるのは当然。リサイクルできるものはする。同じタイミングで大量廃棄される懸念もある。30年ほど稼働するだろうが、廃棄施設を導入し、リサイクルも検討すること求められている。太陽光パネルは産廃。一般とはちがう産業部門のCO2

質疑応答

- (質問) 2

588キロという数字はどう算出された？

車の利用を減らすことの効果は？

(回答)

588の出典の詳細は把握していない。

持続可能なまちをつくらうということ。車を利用せざるを得ない人もいる。ポイントは郊外部でも暮らせるよう、バス路線を維持するなど、まち全体としてやさしいまちづくりができるか。

→各施策がどれくらい効果があるのか示すことが重要。

質疑応答

- (質問) 3
- 新築に太陽光をつけることのPRは？
- 既存の会社建物に太陽光パネルを設置するための、市からのアピールは？

(回答) 新築の際に太陽光をつけることは、ハウスメーカー等からもあり、考える機会が多い。既存の家の場合はタイミングがないとつけようと思わない。ハウスメーカーと組んで何かできないか。10年点検のタイミングで補助金のお話を話すなど。

企業は使命感は強くても、経費がかかる。PPA（初期費用なく太陽光パネルをつけ、発電した電気を使える）→屋根貸し

これに対しても市が補助金を出す。さらにアピールしたい。

質疑応答

- (質問) 2
- バス料金が低い。郊外に住んでいる人が多く、現役世代はバスで駅に行く。若い世代もバイクや車に流れる。電動自転車の補助金、現役世代のバス代サービスなどは？

(回答) 確かに高い、値上がりもした。現役世代は会社が通勤費を負担したりと、バス会社としては待遇改善や燃料費高騰などにより、何とかご理解いただきたいという意向。

車を持つ生活に比べる場合とのコスト感も考えなければいけない。

質疑応答

- (質問) 3
- 家庭ごみの個別回収で減量効果はあったか？

(回答) 実際は環境事業課。実績ではごみの量は減っている。家の前に出すので明確にわかり、減らそうと努力する。慣れると増える傾向にあるよう。効果は一定程度あるようだ。

質疑応答

- (質問) 現状のバスは利用者が増えない。バス以外の交通形態は？
- バス停を快適にする案は？

(回答) 朝夕のピーク時は1時間に4本、日中は30分に1本が理想。バスは賢く使う、慣れてもらうことが必要。

→いまは1時間に1本。

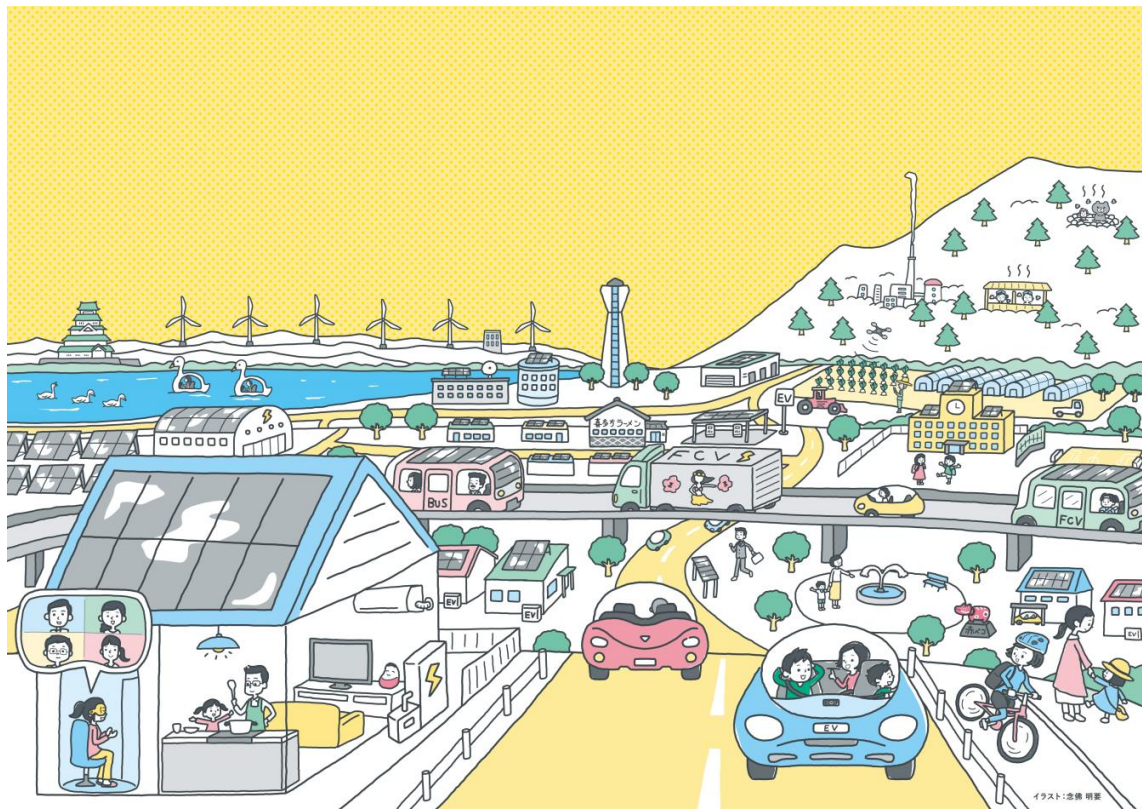
→少ないところもある。需要に応じて組んでいる。

なかなか採算が取れない。今のところはバスだが、接続バスもある。早く着かせるための信号PTCSや専用レーン考えている。

レーンバス事業社が上屋を作るのに補助金。年間2か所ずつ(市内300か所) つくる、すでに半分くらいついている。

グループワーク②

脱炭素化した2050年厚木市のイメージを描く



©国立環境研究所
福島地域協働研究拠点

脱炭素化が、より快適で豊かな生活にもなる！？

- ✓ 断熱性能の高い家なら、快適で健康にもよい！
- ✓ 交通システムの整備で、子供から大人まで安心して移動できる！
- ✓ EV社の普及で大気汚染が改善！
- ✓ テレワークで仕事の効率化や、家庭生活も充実！
- ✓ 緑地が増えることで生物多様性の保全！
- ✓ 再生可能エネルギーの主流化でエネルギーの自立！

対策をすることが一石二鳥に！

グループワーク②

脱炭素化した2050年厚木市のイメージを描く

15:30から	5分	①各自が思いついたものをピンクのふせんに書く
15:35頃から	20分	②ふせんを出し合い、似た意見をグループに分ける
15:55頃から	15分	③深掘りし、追加があれば青のふせんを書く グループのカテゴリ名を緑のふせんを書く (発表者も決めておく)

16:10まで

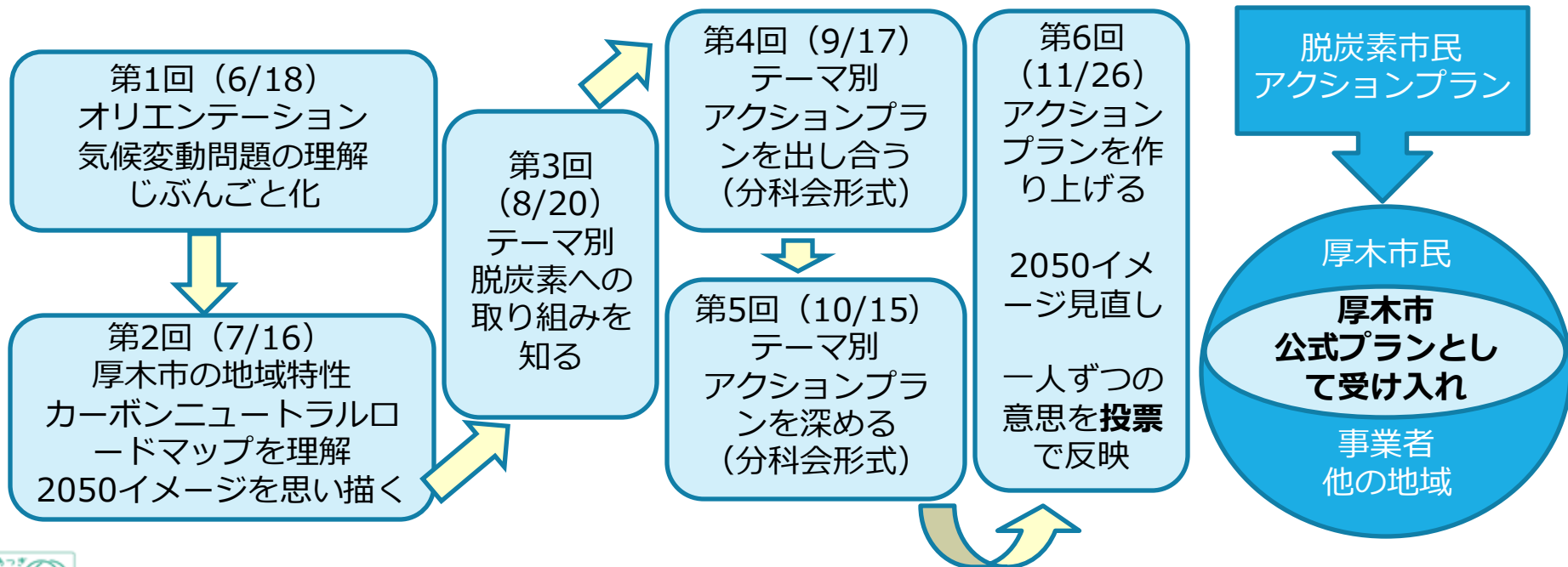
参加者の皆さんから、グループで特徴的だった意見やアイデアを発表していただきます！

脱炭素化した2050年の厚木市のイメージ 各グループからの発表

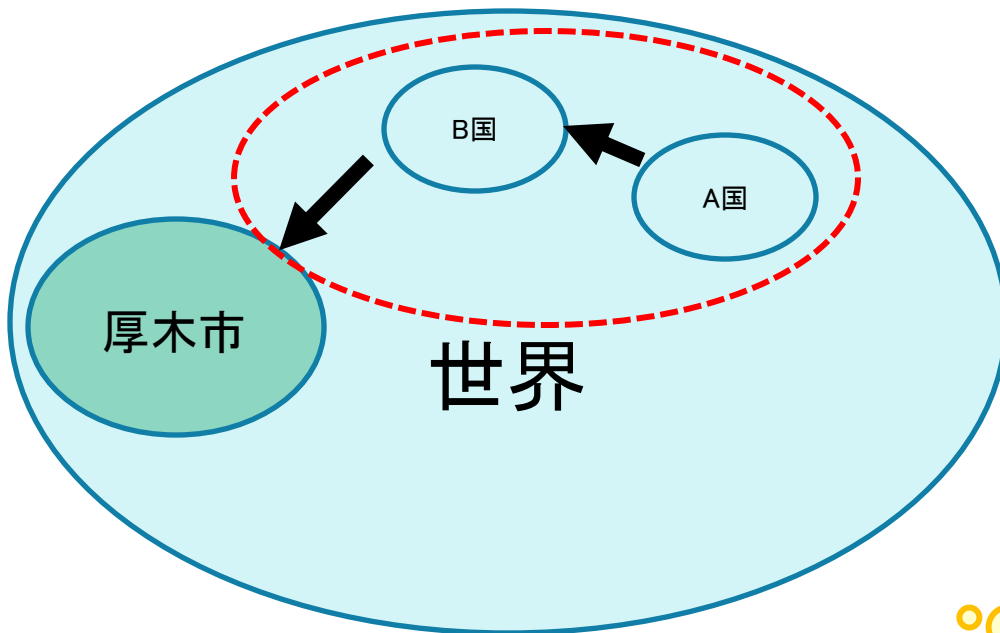
模造紙を持って前に出てください。
1グループ2分をめどに発表してください。

16:20まで

脱炭素市民アクションプラン作成 に向けた議論の進め方提案



市の施策の位置付け



あつぎ気候市民会議
厚木市CNロードマップ
実現も目指すが、これ
は最低限

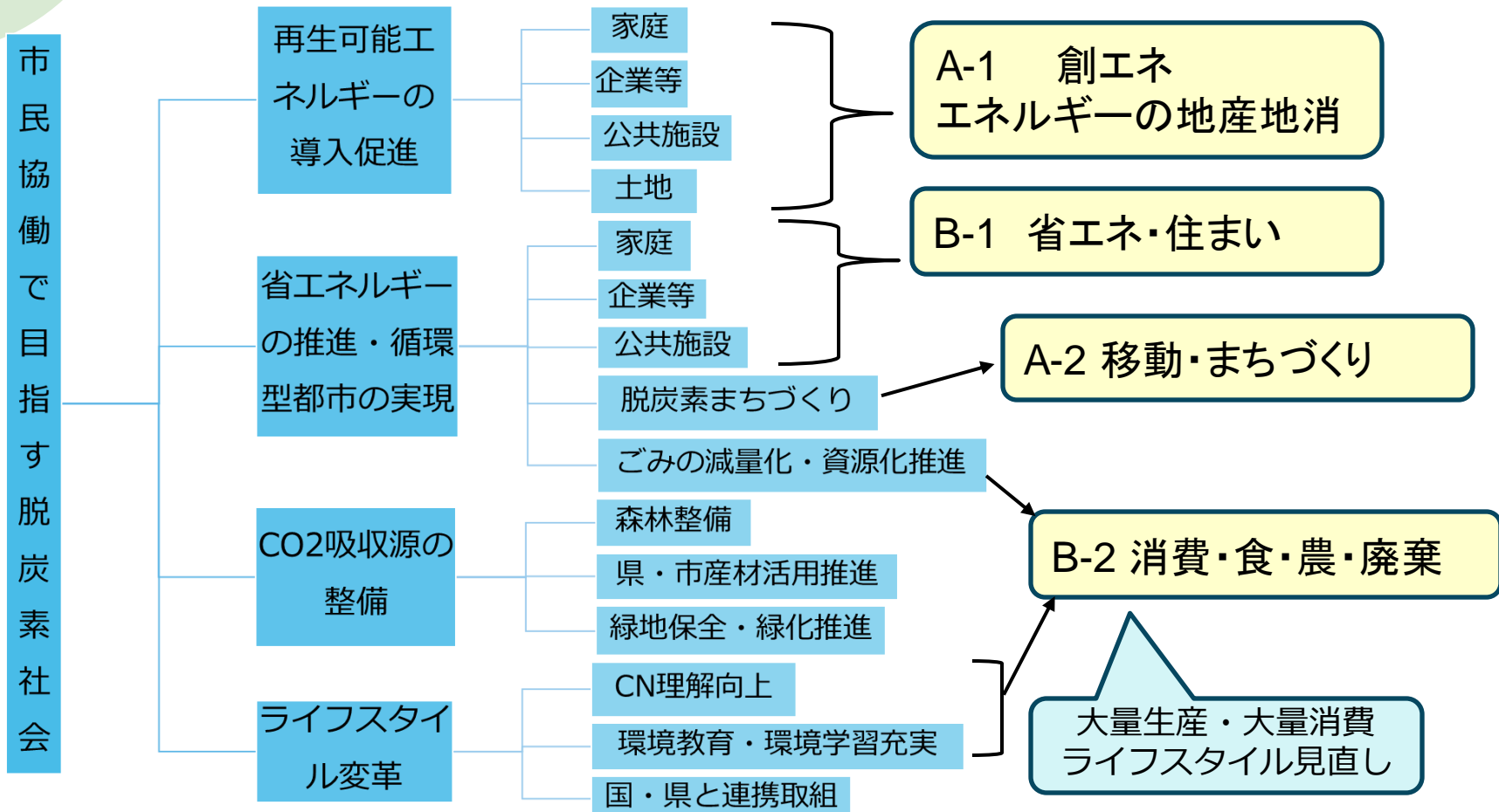
カーボンフットプリン
トの削減・地球規模の
脱炭素で温暖化を止め
よう

厚木市内のCO2削減を目指しています。
(カーボンフットプリント削減の観点が少ない。)

2050目指す脱炭素
社会のイメージ

これをしっかり
思い描きながら議
論しよう

厚木市地球温暖化対策実行計画 施策の柱



脱炭素に向けた議論のテーマ

	メインテーマ・講師（3回目）	情報提供（4回目）
A-1	創エネ・エネルギーの地産地消 松原弘直氏（環境エネルギー政策 研究所・ISEP）	市民による再エネ発電：あつぎ市民発電所 地域新電力：たんたんエナジー 地域内エネルギーマネジメント：小田原市
A-2	移動・まちづくり 梶田佳孝氏（東海大学）	EV：日産テクニカルセンター MaaS：MONET Technologies 公共交通事業者：神奈川中央交通 厚木市の現状と計画：都市計画課
B-1	住まい・省エネ 山本佳嗣氏（東京工芸大学）	窓の断熱：エコ窓普及促進会 住まいの設計建築：コムアソシエイツ 太陽熱利用、省エネ家電
B-2	消費・食・農・廃棄 村上千里氏（消費生活アドバイザー）	大量消費,大量廃棄を見直す：浅利美鈴氏 <small>(京都大学)</small> エシカル消費、不耕起栽培：八一農園 厚木市廃棄物,食品ロス：環境事業課

(5回目) 共通テーマ 普及啓発をどうやって進めるか シンポジウム

浅利美鈴氏、岩崎茜氏、二ノ宮リムさち氏(東海大学)、モデレーター・鈴木秀顕氏(松蔭大学)

脱炭素市民アクションプラン たとえばどんなこと？

- 脱炭素かわさき市民会議より 77項目の提案のごく一部

【移動テーマ】

1. 公共交通機関が便で自家用車に依存せずに生活できるまち

1-1) バス・鉄道の整備水準を引き上げる

- a. バス・鉄道路線を引き続き整備・充実することが必要であり、その場合におけるインフラ整備や車両購入に対しては、公的負担の割合を増やすべきである。

1-3) 乗り合いタクシーなどの地域シェアリング交通を整備する

- h. MaaSを活用した定額制地域交通サービスを導入する。

2. 徒歩・自転車で暮らせるまち

2-1) 自転車の通行環境を整備する

- a. 自転車ネットワーク計画（2029年度末までに自転車通行帯整備延長213km）を超える自転車通行環境を整備する。

3. 電気自動車が普及したまち

3-3) EV充電器を普及させる

- f. 集合住宅への駐車場の付置義務の緩和と引き換えに、EVカーシェアリングを導入し、EV充電器を普及させる。

脱炭素市民アクションプラン たとえばどんなこと？

- 所沢市 マチごとゼロカーボン市民会議より 28項目の施策提案のごく一部

【移動テーマ】

20.自動車を使わなくてもよいマチづくり

公共交通の拠点となる駅の周辺に、病院や行政、商業施設などを集め、歩いて用事を済ませられるマチを複数つくる。また街中での渋滞をなくし、歩行者などの安全性を高めるため、市街地には自家用車が入れないようにし、周辺に駐車場を配置する。市は計画的に用地を確保し、マチの整備にいかしていく。

【商品選択のテーマ】

4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する

日常生活でカーボンフットプリントが小さい商品の購買を促進するため、そうした商品にポイントを付与するシステムを導入する。行政は事業者がカーボンフットプリントの小さい商品を優先できるよう助成し、CO2削減と事業者による利益追求の両立を促進する。

私たち市民がつくる あつぎ脱炭素市民アクションプラン

次回に向けてのご連絡

8月20日（日）13:00～17:00 サイエンスホール250

専門家レクチャー 創エネ・エネルギーの地産地消 松原弘直氏（ISEP）
移動・まちづくり 梶田佳孝氏（東海大学）
住まい・省エネ 山本佳嗣氏（東京工芸大学）
消費・食・農・廃棄 村上千里氏（消費生活アドバイザー）

託児所サービス 次回利用予定の方は、お帰りの際に受付で申し込み

アンケート Googleフォームまたは用紙で：7月17日（月）**〆切**

名札 テーブルに置いてお帰りください。 <https://forms.gle/VvJA4BYjydkBJEgt6>

会議録など公開 会議終了後1週間を目安にホームページにて公開予定

次回の出欠確認 8月5日（土）頃に「あつぎ気候市民会議レター」にて



お疲れさまでした。

あつぎ気候市民会議

